



## 踏み跡 < My mountains >

ら青梅や八王子の灯りを見て、何思うでもなく七代ノ滝への道に入る。七代ノ滝へのルートを選んだのは、おそらく「いくらかでも登りが少ない方が……」という本能の指示によるものだろう。しかしながら、滝回りの道は元の稜線へ戻る僅かな登りが眠くて辛く、結局得した気分にはなれなかった。

昭和 44年 10月 29日

大岳小屋 0時55分着/1時05分発。小屋の一階のランプのホヤが静かに揺れているのが見える。二階からはまだ眠りにつかない登山客の話声が聞こえてくる。

小屋の前の焚火の残り火の温もりを借りてリンゴにかぶりつく。これが第一回目の食事。

大岳山 1時27分。七代ノ滝からずーっとまとわりついていた眠気は稜線の風にあおられて、どうにか覚めて来たようだ。東京の灯りの明るさと月光とに浮き上がる御前山の大きさが実に印象的だ。オープンシャツ一枚だが寒さは感じない。

大ダオ 2時35分。月はまさに頭上。大岳山からの下りが終わり、今度は御前山への登りが始まる。

鞆口山 3時。鷹のような姿の大きな鳥が30分ほど前から頭上を飛んでいる。威嚇でもしているのだろうか、時々低空滑空をして耳の傍を通り抜けて行く。鷹とわかったわけではないが、そう思い込んでしまったので、あの肉食の嘴を想像しただけでブルッと震えてくる。手頃な長さの枯れ枝を見つけて、天を振り回しながら歩いていたら15分ほどで谷間に消えていった。

鳥がいなくなったら緊張すべきものがなくなり、再び睡魔との戦いが始まった。しかも単調で静かな登りだからたまらない。

御前山避難小屋 4時着/6時15分発。水場のあるこの小屋はこのコースで唯一のリフレッシュ場所だ。イナリずしを食べて少しゆっくり休憩することにする。ほっと一息つくともうどうにもたまらなくなり、オーバーズボンとヤッケに身を包み一眠りさせてもらうことにした。

避難小屋には扉もないので、燦々と降り注ぐ太陽の光と楽しげに歌う鳥の声で目が覚めたら6時を少し回っていた。ちょっと寝過ぎたかな、とあわてて飛び起きて身支度を始めたら、物音に驚いた鳥たちが小屋の外へと飛び出して行った。日の出はもうとっくに終わり、草々に付いた露の輝きがまぶしい。タンクに水を満たして出発。

御前山 6時25分。夏の賑わいを忘れた朝の山頂は、色づいた唐松と夏の日のゴミがいくつか。

小河内峠 7時。小気味よく下りが続く灌木の中の尾根道。やがて右下に奥多摩湖が見え隠れするようになると行く手に三頭山が御前山よりさらに大きく広く立ちはだかるようになってくる。

月夜見山 7時45分着/8時発。山の名前からすれば深夜に通過すべきところかもしれないが、今もう日が高い。三回目の食事はオハギと桃の缶詰。風張峠はいつの間にか通り過ぎてしまい、

鞆口峠 9時着/9時45分発。御岳の駅を出てからもう12時間近くなる。大分倦怠感が頭をもたげ始めて来た。岩場の多い北アルプスや南アルプスは足元の変化が多いから適度な緊張が続いて良いが、夜の歩行は見る物についても足の感触についてもちょっと雰囲気異なるように思う。身の危険の少ない山歩きは体の緊張感にも変化がなく、旅路はいきおい飽きやすい。しかしこらあたりから勝負どころ、しかも「心の勝負」のような気がしてきた。日を浴びた木の根に腰を下ろしてしばしの休息。ここ、鞆口峠の静けさもいつまで続くことだろうか、奥多摩自動車道建設のための発破の注意看板がもう建ち始めている。

三頭山 10時30分着/10時45分発。このコース中の最高峰なので、ここを過ぎれば後は大きな登りは無い。頂上で心からホッとして、腰を下ろして第四回目の食事(レモンライス)。水も残りが少なくなり、段々に貴重品になってきた。

大沢山 11時05分。笹尾根に入って第一峰。避難小屋はあるが、水場はハチザス沢をかなり下らなければならぬので補充はしない。その昔、月夜の晩に笹尾根から下って水を得たことを思い出す。

榎寄山 11時45分着/12時20分発。下りが殆どなのに、思いのほかスピードが上がらないのはやはり疲労のせいだろうか。五回目の食事は昼食としてハンバーグ。ほとんど上下のないカヤトの草原のような稜線が続く。

笛吹(うずしき)峠 13時10分着/13時25分発。段々インターバルが短くなってきた。水も気力も残りが少なくなってきた。時計から見ると、陣馬山まで行けば上出来で高尾山まではちょっと……というような時間になってきた。それでも陣馬山へ日暮までに到着できるだろうか。丸山という小さな突起を越えるのが重荷に感じられた。

小綱(こゆずり)峠 13時50分着/14時発。水と時間が足りそうもないし、最終バスの時間を考えるとそろそろ下山ルートを考えなければいけない時間帯になってきた。心残りではあるが、浅間峠から南秋川へ下山することに決定。

土俵岳 14時20分。

浅間峠 15時10分着/15時20分発。笹尾根を離れて下山ルートに入る。下りの力を出せるように、残りの水を全部飲み干して深呼吸。完走できなかったのは残念だが、いったん下りに入ると意外にまだ力が残っている。とは言っても、足の裏まで来ている疲れは隠せない。

上川乗 16時30分。計画した全コースのうち(地図上の尾根をたどった距離で)80%をこなしたことになる。

## 踏み跡 < My mountains >

いやはや我ながらよく歩いたものだ。全行程 18 時間 30 分、その内休憩時間 4 時間 55 分。足の裏が痛い。完走できなかった主な原因は、①出発が遅かったこと ②水が 1ℓだったこと と考えられる。御前避難小屋での仮眠はかなり効果的だった。

17 時か 18 時頃に出発して水を 2ℓ持てば、気力次第ではあるが完走できるにちがいない。

山のマラソンというか、こういうスタイルの山行を今後再体験できるかどうかわからないが、実に学ぶところの多い山行だった。自らの心と体と技を試すと言う意味でも得るところが沢山あった。

なんとタイムリーな話か、4 分待っただけで五日市行の最終バスに乗ることができた。何を思う余裕もなく、バスと電車でただただ昏睡。

以上